

くらき永田保育園便り



新年明けましておめでとうございます。お正月はご家族そろってゆっくりと過ごせましたか？ どんな初夢を見ましたか？ さて、昨年末はコロナ禍というよりもインフルエンザの流行にびくびくした毎日でしたが、2024年は、くらき永田保育園が大切にしている「体験とつながり」を大切に一年を過ごしていきたいと思います。今日から職員は仕事モード、子どもは遊びモード全開で過ごしたいと思います。

《衛生面に配慮しながら“餅つき”実施します》

今年も、子どもたちが大好きな食の体験イベント「餅つき」を1月17日に実施したいと思います。園庭中に響き渡る「よいしょ！ よいしょ！」の掛け声を地域の人たちも冬の風物詩として楽しみにしてくれているようです。お手伝いの保護者の皆さんには衛生面に関していろいろと協力をお願いすることが多くなりますがご了承ください。

2023年を振り返ってみると5月に新型コロナウイルスが5類感染症に変更されたことで、マスクの着用は個人の判断にゆだねられ、実質「ノーマスク解禁」となり、様々な保育園行事が再開されました。少しずつですが「やっと、昔に戻ってきた！」と感じられる1年だったのではないのでしょうか。そんな中、あまりニュースにはなっていませんが、PISAという国際的な「学習到達度調査」が発表されました。38の先進国が加盟するOECD（経済協力開発機構）が、各国の15歳を対象に、「読解力」「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」の3つの分野で調査を行い、その結果を公表しているのですが、日本はOECD加盟国の中で、数学的リテラシーと科学的リテラシーが1位、読解力2位という結果となり、前回調査よりも格段と良い成績となりました。私の感覚では各国の学びの特性が反映されたというよりもコロナ禍をどのように過ごしたかによって数字に差が出た印象は否めません。しかし、この調査結果は今、保育園にいる子どもたちの今後の教育制度に影響を及ぼす可能性もあるので興味がある方はネットなどで調べてみるのも面白いかもしれません。

《保育園からのお知らせ》

- ① 毎月初旬に請求している主食費とおむつ代の集金を会計処理の関係で来月（2月1日封筒配布）は2カ月分（2～3月分）徴収しますのでご協力お願いします。支払いの方法等についてご質問のある方は園長までご相談下さい。
- ② 嘔吐・下痢の処理をするための、使い古しのタオルが不足しています。ご家庭で不要になったフェイスタオルやバスタオルがありましたら、一枚でも構いませんので事務所までお願いします。

各クラスの子どもと文化継承をお伝えします！



にこにこ

わらべ歌とは「童」の歌と書き、子どもの歌と言う意味があります。童謡と違い音階も子どもが真似しやすくなっているのも特徴です。0歳児のわらべうたは大人と一緒に遊ぶことで、愛着関係を育む、歌ってもらい心地良さを感じる、言語を知っていく、大人の仕草遊びを真似することなどがあげられます。初めは「にぎりぱっちり」や「じーじーばー」など大人事からの発信が多かったのですが、今では保育士が歌うと「ちよちよちあわわ」「ちゅちゅこっこ」と口ずさんだり、仕草を真似て体を動かし楽しんでいきます。また友だち同士で手を繋ぎ、拍手をして笑い合う場面も見られるようになりました。毎月来てくれる久保先生のわらべうたは、子どもも私たち職員も心穏やかになれる素敵な時間です。これからも、わらべうたが心の通い合いを深める大切なコミュニケーションツールにして、子どもたちの笑顔をたくさん共有していきたいと思えます。



よちよち

私たち保育士は、子どもたちが興味のあるものや季節に合った絵本を毎月数冊ずつ選んでいます。その中でも特に人気の絵本があり、例えば、夏頃に楽しんでいた『きんぎょがにげた』（五味太郎）や、秋頃に楽しんでいた『おにぎり』（文・平山英三、絵・平山和子）です。

『きんぎょがにげた』は、「どこどこ？」「いたー！」など指差しをしながら金魚を探すことを楽しんでいました。『おにぎり』は、絵本を読んでいると、炊きたての白いご飯を見ながら、「ふうふう」とご飯を冷ましたり、最後にはもぐもぐと口を動かしておにぎりを食べる姿も見られました。これらの絵本は30年以上も前に発刊されたものですが、子どもたちが絵本を楽しむ様子を見ていると、世代を超えて多くの子どもたちに親しまれ続けている理由が見えてきます。

その一方で、お月見の季節に楽しんでいた『おつきさまのパンケーキ』（真珠まりこ）のように近年に発刊された絵本も人気があります。子どもにとって絵本が古い、新しいは関係なく、楽しいや面白いと感じたものがこの先も子どもたちに愛され続けていく絵本になるのではないかと思います。これからも多くの絵本との出会いを大切にしながら、子どもたちと絵本の世界を楽しんでいきます。





すくすく

絵本「3びきのやぎのがらがらどん」が大人気です。この絵本は1965年から50年以上も親しまれている絵本です。絵のタッチが独特でトロルが出てくる場面では「わー」と驚いた声を出したり、怖いもの見たさで顔を隠している指のすき間からチラチラと覗く姿もありました。しかし、何度も繰り返し見ることで、すっかり「トロル」に魅了されていました。

発表会では、「中ヤギがいい」「大ヤギがいい」と自分でやりたい役を選び何度も劇ごっこを繰り返して一人ひとりがイメージした「がらがらどん」を表現しました。

発表会後も、トロル人気は継続していました。「だれだ！」と迫力のある声で演じる事やナレーター役に成りきって効果音まで再現して遊んでいます。

今後は、小さな表現者展に向けて戸外で素材（枯葉、枝など）を集めてトロルの衣装を作ろうとしています。子どもたちが感じているトロルの世界観を楽しみにしてください！



異年齢

日本の伝統的な遊び『独楽』は正月遊びとして紹介されることが多くあります。発表会でもご覧いただけたと思いますが、くらき永田保育園の子どもたちは『独楽遊び』が大好きで、正月だけでなく年中遊ぶほど皆に親しまれ、長く受け継がれている遊びの1つです。「先生～独楽台を出すね」と言い、子どもたちで台を準備して遊びが始まります。独楽の種類は、手回し独楽、鉄芯独楽、木芯独楽があり、のびのび組はお兄さんお姉さんのカッコいい姿に憧れ、まずは手回し独楽からスタートです。木芯独楽を回せるようになるには日々の遊び込みが必要で、紐の巻き方から何度も何度も教えてもらいます。また独楽を上手く回せなくて「出来ない～」と悔し涙を流しながらも諦めない姿など、幾つものドラマがありました。子どもにとって沢山努力をして独楽を回せた時の喜びと達成感はとても大きなものです。また年下の子に優しく教えてあげるといった関係性は異年齢ならではの光景だと微笑ましく見守っています。今月には『独楽大会』を行う予定ですのでお楽しみに！



給食室

新しい一年が始まりました。2024年も、子どもたちにたくさんの食経験をしてもらいたいです！給食室でも、子どもたちに楽しんでもらえる給食作りはもちろん、食育活動など、食への興味が広がる工夫をしていきたいと思えます。

今月は、行事食として献立に取り入れている、毎年恒例「七草粥」がおやつに登場します。

七草粥に使う、「春の七草」は、実は身近なところにたくさんあって、保育園でも、あちらこちらで見つけることができるんですよ！

お家の周りや、保育園までの道のりでも、見つけることができるかも・・・

さて、これも春の七草の一つ。園庭で摘んできました。
何という名前の植物か、わかりますか？



正解は・・・事務所まで♪

園庭やお家の周りで、お子さんと探してみてくださいね！



木育係より



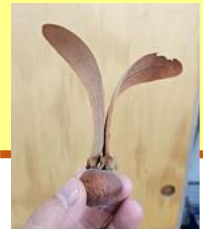
先日、横浜国立大学での「里山 ESD BASE 横国の森ワークショップ-里山で考える未来」というイベントに参加してきました。大学の広大な敷地には魅力的な森があって、沢山の木や木の実、虫たちがいる自然豊かなところでした。ワークショップでは落ち葉や草、実を使った遊びや木のお皿制作などありました。一番興味があったものが『空飛ぶ種工作』でした。様々な種類から種工作を作り高い所から落とし、実や種がどのように落ちていくのかを調べて遊びました。種の形によって、くるくると回転しながら落ちたり、紙飛行機のように遠くまで飛んでいく種があって、とても不思議で楽しかったです。講師の先生に「空飛ぶ種は何処に行ったらありますか？」と尋ねたところ、横浜のセンター北駅付近にあるとの情報をもらい、後日、くるくる回りながら落ちてくる『シナノキ』の種を手に入れることが出来ました。

また森の中を探索していると、以前から探していた「ムクロジ」という木を発見して沢山の実を収穫することが出来ました。

では 『ムクロジ』という木の実について紹介します。

黄色い実で中には黒色の種が入っている木の実です。お正月に遊ぶ羽根つきに使う羽根の根元にある黒い珠は、ムクロジの種です。そして、実にはサポニンという成分を含んでいて昔は石鹸に使われていました。ペットボトルに実と水を入れて「シャカシャカ」と振ると、あっという間に泡が立ち「ムクロジ石鹸」の完成です。

『ムクロジ』の実と『シナノキ』の種は事務所前に展示しますので、触れてみて下さい。今後は、子どもたちと一緒に『ムクロジ石鹸』も作ってみたいと思っています。



今月の行事

- | | |
|--------|------------|
| 13日(土) | 布団乾燥 |
| 17日(水) | もちつき |
| 18日(木) | 久保先生のわらべうた |